

きたりすナトキノはなし

THE TALE OF SQUIRREL NUTKIN

ベアトリクス・ポッター Beatrix Potter
おおくぼゆう [やへ]

ノ
ラ
に
お
く
る
も
の
が
た
り





これは おはなしですーつまりは きたり
すの しつぽの はなしで、 そのこの なまえ
は ナトキンと いいました。

チンクルベリという おにいさんと おおぜい
の いとこがいて、 みんなして みずうみの
ほとりにある 1ぽんの きに すんでいました。



そのみずうみの まんなかには しまが あつ
て、 もりと どんぐりの やぶに おおわれて、
1 ぽんの がらんどうに なった ナラのきが
ありました。そこは しまの ぬしである ブ
ラウンという ふくろうの おうちでした。



あるとしの あきは きのみも たわわ、ハ
シバミの やぶでも はっぱが きいろに みど
り ー ナトキンと チンクルベリは おおぜ
いの こどもりすと いっしょに もりの そと
へ でて、 みずうみの ほとりへと むかいま
した。



ちからを あわせて きのえだで こぶりの
いかだを つくって、 みなもを こぎこぎ、 ど
んぐりを あつめに ふくろうの しまへ むか
います。

ひとりひとり ちいさな ふくろと おおきな
オールを てにして、 ほぬのがわりに しつぽ
を のばします。



しまの　ぬし　ブラウンへの　てみやげとして
3びきの　ぶくぶくとした　ねずみも　つれて
いって、　とぐちの　ところへ　さしだしました。
それから　チンクルベリと　りすいちどうは
いっせいに　ふかぶかと　おじぎを　して、　て
いねいな　ことばづかいで、
「しまの　ぬし　ブラウンさま、　どうか　このし
まの　どんぐりを　とること　おゆるし　ねがえ
ませんか？」



ところが ナトキンの たいどは めに あま
るほど なまいきで、 あかい サクランボみた
いに ふらふらと うごきながら こんなことを
うたうのです。

「なぞなぞ なぞなぞ といてみる！」

あかい ふく きた ちびつこが

てには ぼうきれ、 のどには こいし、
このなぞ とけたら おだちゃんやるぞ。」

とはいえ このなぞなぞは むかしながらの
ものなので、 しまぬしさまも ナトキンをと
ことん むししました。

かたく めを つむると ぐっすり すやすや。



りすたちは ちいさな ふくろ いっぱいに
どんぐりを つめ、 ひが くれると いかだを
こいで おうちへ かえりました。



けれども あくるひの あさ ふくろうの し
まに もういちど みんなで むかいました。
チンクルベリたちは 1ぴきの まるまる ふ
とった もぐらを もって行って、 しまぬしさ
まの とぐちまえにある いしの うえへと の
せて、 いいました。
「ブラウンさま、 どうか もっと どんぐりを
とること、 おおめに みて いただけません
か？」



ところが ナトキンは ぶれいせんばん ぴよ
こびよこ あたりを うごきまわって、 しまぬ
しさまを イラクサで ちくりと さし、 うた
を うたうのです。

「ブーの jijい、 なぞなぞ とけよ！

ヒツチピツチが かべのなか

ヒツチピツチは かべのそと

ヒツチピツチに さわったら

ヒツチピツチが かみつくぞ！」

しまぬしさまは やにわに めを あけると、
もぐらを かかえて おうちの なかへ はいっ
てしまいました。



ナトキンの　めのまえで　とびらが　しまり、
やがて　まきを　もやす　こい　けむりが　ほっ
そりと　きの　てっぺんから　ふきだしてきまし
た。　そこで　ナトキンは　かぎあなから　なか
を　のぞいて　またしても　うたいます。

「おうちは　いっぱい、　あなも　いっぱ
い！

だから　おわん　１ぱいぶんも　あつま
らない！」



りすたちは　しまじゅうで　どんぐりを　さが
し、　ちいさな　ふくろを　いっぱいに　しまし
た。

けれども　ナトキンは　きいろや　あかの　む
しこぶを　ひろいあつめて、　ブナの　きりかぶ
に　すわって　たまあそびを　しながら　しまぬ
しさまの　おうちの　とびらを　じっと　みはる
のです。



みつかめの りすたちは はやおきして つり
に かけました。 つりあげた 7 ひきの ぷ
りぷりした コイは しまぬしさまへの みつぎ
ものです。

みんなで みずうみを わたり、 ふくろうじ
まの ひんまがった クリのきの したから お
かに あがります。



チンクルベリと 6ぴきの りすは ぷりぷり
した コイを それぞれ 1ぴきずつ はこんだ
のですが、 ナトキンはおぎようぎも よくな
いので みつぎものなんか まったく もちませ
ん。 いちばん まえを はしって、 うたを
くちずさむのです。

「あれちの おとこが ぼくに つげた
『うみでは イチゴは いくつ そだつ?』
しょうがないから こたえは 『もりで
にしんの くんせい そだつ かず。』」
それでも しまぬしさまは なぞなぞを どう
とも しないのです。 せつかく こたえまで
おしえてあげたのに。



よつかめの　りすたちの　おみやげは　まるま
るした　カブトムシ　6ぴきで、　ぬしさまから
すれば　プラムプディングに　はいつてる　プラ
ムみたいな　ものなのです。　カブトムシは　1
ぴきずつ　ギシギシの　はっぱで　ていねいに
くるんで、　マツバを　さして　とめてありまし
た。　にもかかわらず　ナトキンは　あいもかわ
らず　うたいます。

「ブーの　じじい！　なぞなぞ　とけよ
イギリスこむぎこ　スペインくだもの
どしやぶりのなか　はちあわせ、
ぐるぐるまきで　ふくろに　いれろ、

このなぞ とけたら ゆびわを やる

ぞ！」

そんなこと いうなんて ナトキンも おばか
さんです。 だって しめぬさまに さしあげ
る ゆびわなんて そもそも ないんですから。



ほかの りすたちは やぶを かけまわって
どんぐりを ひろっていたと いうのに ナトキ
ンは イバラから おちた むしこぶを あつめ
て みんな マツバの はりで めったぎしに
してしまいました。



いつかめに　りすたちが　みついだのは、と
れたての　はちみつだんご。　とつても　あまく
て　とろとろ　していて、　いしの　うえに　お
いたあとでも　ゆびを　ねぶってしまふほどです。
おかの　てっぺんぺんにある　まるはなばちの
すから　かっぱらってきた　ものでした。
ところが　ナトキンは　あたりを　スキップし
ながら　うたいます。

「ぶうんぶん！　ぶぶ！　ぶぶ！　ぶうん
ぶん！

チップルチンの　あたりを　ゆけば

ぶうぶうブタの むれに であう
きいろの おくびに きいろい おけつ！
やつらは チップルチンの あたりでは
いちばん ぶうぶう なくブタよ。」



しまぬしさまは ナトキンの ぶれいな ふる
まいに いやけが さして めを そむけました。
それでも はちみつは めしあがりしましたけ
ど！



りすたちは みんなで こぶくろに どんぐり
をつめました。

けれども ナトキンは ひらべったい おおい
わの うえに あがって、 ヒメリングと モミ
の まつかさで ボウリングあそびです。



むいかめは どうようびで りすたちが くるの
も これで さいご。 ちいさな いぐさの か
ごで うみたての たまごを もってきて、ぬ
しさまへの おわかれとばかりに さしあげるの
です。

それなのに ナトキンは まえを かけまわっ
て おおごえで ——

「ハンプティダンプティ ところにふす

かけぶとんが こんもりと

いしやが40 だいくが40

それでもなおらぬ ハンプティダンプ

ティ！」



それはさておき　しまぬしさまは　たまごが
いたく　おきにいりで、　かためを　あけて　ま
た　とじました。　でも　やっぱり　なんとも
しゃべりません。



ナトキンは　ますます　いいきになつて――

「ブーの　じじい！　ブーのじじい！

はづな、　はづな、　おしろの

いたばの　ドアの　ところ

うまと　けらいが　そうでも

おしろの　いたばの　ドアからは

はづな　はづなは　はずされぬ。」

ナトキンの　おどりあばれる　さまは　まるで

おひさまの　ひかりのようでしたが、　それでも

しまぬしさまは　びどうだに　しません。



ナトキンは またも はじめます ——

「ゆみひき アーサー なわぬけて

おたけび あげて さんじようだ

スコットランドの おうの ちからも

ゆみひき アーサー とめられぬ。」

ナトキンの うるささと いったら もう あ

らしのようで、 あげくの はてに しまぬしさ

まの ずじように ぴょーんと とびかかったの

です！ ……

すると みんな いっせいに ちらばって、

ちゅーと さけんで おおさわぎ。 ぜんいんが

あわてふためき、 やぶのなかへと きえてしま

いました。



やがて こっそり もどってきて きのうらか
ら ようすを うかがうと、 しまぬしさまは
とぐちのところに すわったまま びくともせず
めを とじていて、 まるで なにも なかった
かのよう。

* * *

ところが ナトキンが ぬしさまの おなかの
けのなかに おさまっているでは ありません
か！



ここで おはなしが おちそうなものですが、
そうはいきません。



ぬしさまは ナトキンを おうちのなかへ つ
れこんで、 そのしっぽを つかんで かわを
はごうと しました。 けれども ナトキンも
ぐっと つよく ひっぱったので、 しっぽは
まんなかで ちぎれてしまったのです。 そのま
ま かいだんを かけあがって、 やねうらの
まどから にげだしました。



そんなわけで いまの いまでも きのうえに
のぼって ナトキンに なぞなぞを だそうもの
なら、 えだを なげつけてきて じだんだ ふ
んで、 ぶんすか わめくでしょう ——
「くそ —— くそ —— くそ —— くっそ
—— くそおおお！」

（おしまい）

翻訳の底本：Beatrix Potter ”The Tale of Squirrel Nutkin”（1903）

上記の翻訳底本は、著作権が失効しています。

翻訳者：大久保ゆう

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」

（<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>）によって公開されています。

上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

※翻訳者のホームページは、<http://www.alz.jp/221b/> にあります。作品・翻訳の最新情報やお問い合わせは青空文庫ではなく、こちらをお願いします。

2009 年 12 月 4 日翻訳

2010 年 2 月 10 日修正

2010 年 3 月 23 日微修正

2010 年 3 月 23 日ファイル作成

青空文庫提供ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）へ提供されています。

